

2024年度国際日本学研究科(博士前期課程)新規授業担当者 授業科目概要

(1) ポップカルチャー研究領域

演習科目

授業科目名	職格 教員氏名	授業等の内容
ポップカルチャー演習IV A	特任教授 氷川 竜介	【1年生春学期】研究を行い、修士論文を執筆する上で必要な条件を入念に確認する。研究とはテーマに対して先行研究を調べた上で、新規性のある「問い」をたてることから始まる。その問いを「仮説」にした上で、適切な手法でエビデンスに基づく実証が急務である。そこに批評のような意見は不要だ。発表や議論、意見交換をもとに、こうした研究の手法とその基本姿勢を指導する。また執筆を進める上での計画についても、研究計画概要として固める。
ポップカルチャー演習IV B	特任教授 氷川 竜介	【1年生秋学期】IV Aで得られた基礎を前提に、テーマに即して研究方法の具体化を深めていく。先行研究は概して乏しいため、関連メディア（マンガ、ゲーム、ノベル等）、社会の推移、ビジネス概況、表現について多角的に議論し、文献調査、数値調査、関係者への聞き取り調査など方法の妥当性を検討する。11月に「論文作成計画書」を完成、12月中旬には「第1次中間報告会」がある。その時点で1年後のゴールが見えてなければならない。それを前提に進める。
ポップカルチャー演習IV C	特任教授 氷川 竜介	【2年生春学期】修士論文の締め切りは秋学期末ではない。秋学期する予備登録が行われ、その時点で完成が見えている必要がある。この春学期が勝負である。6月下旬には論文概要を作成した上で、第2次中間報告会がある。他の院生、指導教官に向けて提出する修士論文の内容を発表する。これが他者からの最後のチェックとなるし、この時点でデータ収集や取材など材料の大半は終わっていることが好ましい。修士論文としての完成形が見えるように議論、指導を行う。
ポップカルチャー演習IV D	特任教授 氷川 竜介	【2年生秋学期】10月中旬に予備登録を行う。そして修士論文の提出は年明けすぐである。当研究領域では12月中旬までに指導教官に内容が整った修士論文の完成形を提出することが求められる。以後は分析、考察などの甘い部分の修正、文章の完成度などクオリティ向上につとめることになる。使える時間はほとんど残っていない。夏期休暇を有効に使い、以後も計画に基づき、自主的にコンスタントな執筆に努めること。指導教官は、そのための助力を続ける。